

国立大学法人大阪大学総長の業績評価について

令和元年12月25日

総長選考会議

国立大学法人大阪大学総長選考会議規程第3条第2号に基づき、また平成28年9月1日の総長選考会議決定により、本総長選考会議（以下「選考会議」という）は、総長の任期5年目に実施する業績評価として、平成30年11月～令和元年10月の期間における業務執行状況の確認を行った。

1. 業務執行状況の確認方法

選考会議は、総長の業績評価に係る観点等として、(1)「所信表明書」及び「OUビジョン2021」の進捗状況、(2)平成30年度に係る文部科学省国立大学法人評価委員会の「業務の実績に関する評価結果」とそれを受けての対応状況、(3)監事の平成30年度定期監査報告とその報告を受けての大学運営への反映状況、(4)経営協議会における学外委員からの意見及び前回の選考会議による「総長業績評価結果」を受けての大学運営への反映状況、を設定した。第35回選考会議（令和元年11月25日開催）において、最初に監事との意見交換を行い、続いて平成30年11月～令和元年10月の期間における業務執行状況の説明を総長から受け、その後総長に対する質疑応答を行い、上記の観点等に基づいて業務執行状況の確認を行った。

2. 結果

今回の業務執行状況確認の期間である平成30年11月～令和元年10月は、「OUビジョン2021」の実現に向けた熟成期の後半が終了して完成期がスタートした時期である。この重要な1年間に、「Society 5.0 実現化研究拠点支援事業」の採択、社会課題（SDGs）に取り組む大阪大学の考え方を示す「いのち構想」の策定、2件の「卓越大学院プログラム」の採択、「第1回日本オープンイノベーション大賞」受賞、大学のグローバル化やダイバーシティの更なる推進等、重要施策が着実に実施された。さらに、新しい執行部体制のもとに「研究開発エコシステム」を「国立大学改革強化推進補助金」により推進する体制が構築され、「OUビジョン2021」実現の完成期に向けた準備がしっかり整えられたと高く評価される。また、箕面新キャンパスに大学と市民の共創を具体化する新たな図書館を設置する構想は、国立大学法人評価委員会からも特筆事項として挙げら

れており、とりわけ高く評価される。

総長は就任以来、大阪大学憲章に謳われている「対話の促進」を重視する運営をされてきており、今後も徹底した対話に基づくリーダーシップを発揮し、「OU ビジョン 2021」を実現されることを大いに期待する。

なお、この1年間に、情報セキュリティ事案、研究不正や手当の不正支給等のコンプライアンス事案も発生したが、それらに対しては厳正に対処するとともに更なる再発防止対策がとられたと判断される。今後も、危機管理やコンプライアンスにおけるそうした事案が二度と起きないような取組を継続して実施することを要望する。